医療法人社団日高会
日高病院

病診連携通信

Information

No.81～ No.90

H27.1.10 ～H29.5.13

病診連携通信 No.81 ～ No.90

Information

No.	発行日	主な内容
No.81	平成27年01月10日	救急科専門委指定施設 認定/研修認定施設 認定
No.82	平成27年03月05日	高崎市救急医療研究会開催/生体間腎臓移植手術
No.84	平成28年05月16日	日高病院 血管内治療センター開設
No.85	平成28年10月08日	眼科 診療体制変更
No.86	平成28年11月07日	最新型手術支援ロボットda Vinci Xi導入
No.87	平成29年05月13日	下肢静脈瘤治療開始/腫瘍センター医学物理室開設
No.88	平成28年10月08日	眼科 診療体制
No.89	平成28年11月07日	最新型手術支援ロボットda Vinci Xi導入
No.90	平成29年05月13日	下肢静脈瘤治療開始/腫瘍センター医学物理室開設

医療法人社団日高会
日高病院

医療法人社団日高会日高病院

◎群馬県がん診療連携推進病院
◎地域医療支援病院
◎災害拠点病院

病診連携通信

No81
平成27年1月10日
日高病院病診連携室発行
TEL 027-362-6201
FAX 027-362-0217

日本救急医学会より救急科専門医指定施設に認定されました。

日本救急医学会より救急科専門医指定施設に認定されました。

当院が目指すべき救急医療体制は、いわゆる北米型ERのシステムです。治療を必要とする患者さんを区別することなく、基本的にまず全ての救急患者を受け入れ、その上で最善の策を講じる体制です。

現在、救急医療の向上のため、研修医・看護師・救急救命士の教育という重要な役割を担っています。その機能を十分に発揮するためには、地域との連携が重要です。関係医療機関や医師会、地域との連携をより深め救急医療の機能別分担も進めていく必要があると考えています。

救急科専門医指定施設　認定要件

1. 救急部門があること。
2. 各種の救急患者を診療していること。
3. 救急車で搬送される救急患者を充分数受け入れていること。
4. 院外心肺停止（CPA）患者を充分数受け入れていること。
5. 救急科専門医が 2 名以上常勤医として勤務していること。
6. 専門医の修練に適した設備が完備されていること。
7. 救急部門の専任医がいること。
8. 学会活動等救急医療に関する業績が充分あること。

※ただし，専門医指定施設の初回新規申請に限り，第5 項の規定にしばられずに，救急科専門医が1 名でも申請することができる。

救急科専門医指定施設証

認定番号　第 0633 号

医療法人社団日高会
日高病院

貴施設を救急科専門医指定施設として認定します

認定期間　自　2015 年 1 月 1 日　至　2017 年 12 月 31 日

2015 年 1 月 1 日

一般社団法人 日本救急医学会
代表理事 行岡哲男

日本病理学会　研修認定施設に認定されました

日本病理学会より「日本病理学会研修認定施設」に認定されました。

日本病理学会認定施設とは人体病理学を研修するのに適し，一定の規模と研究・教育環境を備える施設であり、日本病理学会が「認定施設認定審査細則」に定められた基準に基づいて認定されます。

日本病理学会研修認定施設　認定要件

(1) 人体病理学を研修する者各人が4年間に著しく片寄らない剖検40例、同じく生検 5,000件をみずから経験し研修するに十分な条件を備えていること。

(2) 上記の条件を満たす事項として以下が顧慮される。

（イ）年間剖検数（日本病理剖検輯報収録剖検例30例以上）
（ロ）年間生検数（1,500件以上）
（ハ）細胞診業務の実施状況
（ニ）臨床病理検討会（CPC ）の開催状況
（ホ）剖検・生検資料の保管状況
（ヘ）病理診断業務に関する精度管理状況
（ト）病理業務関係要員、施設・機器などの整備状況
（チ）研究・研修用図書の整備状況

(3) 病理専門医研修指導責任者となりうる病理専門医研修指導医が専任していること。

日本病理学会
研修認定施設認定証

病院名　医療法人社団日高会
日高病院

貴病院を日本病理学会病理専門医制度規程による日本病理学会研修認定施設Bとして認定する。

認定番号　第 3143 号
認定期間　平成26年4月 1日より
平成28年3月31日まで

平成26年4月1日

一般社団法人 日本病理学会
理事長 深山正久
病理専門医制度運営委員長 黒田誠

医療法人社団日高会日高病院

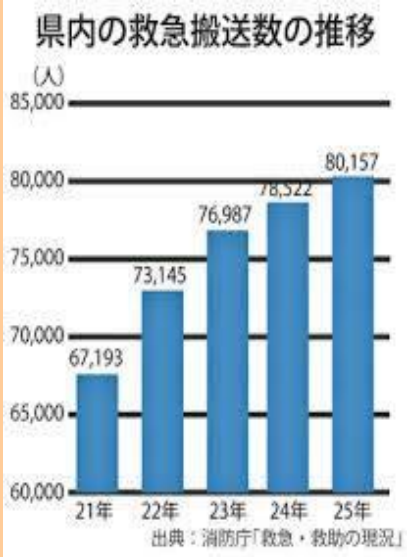
◎群馬県がん診療連携推進病院
◎地域医療支援病院
◎災害拠点病院

病診連携通信

No82
平成27年3月5日
日高病院病診連携室発行
TEL 027-362-6201
FAX 027-362-0217

第7回　高崎市救急医療研究会が開催されました

平成27年1月、高崎市保健センターで開催されました。当院はホスト病院として運営を担いました。
研究会では当院の救急科部長　木村圭一医師が『救急で迷ったら』と題して講演を行いました。更に、高崎市等広域消防局の警防課　小池課長補佐より『群馬県救急搬送システムの活用と高崎・安中医療圏の特徴』と題してご講演をいただき、救急搬送を短縮するための様々な取り組みによって成果を上げた報告がありました。
本研究会を通して、医療機関と消防局の相互理解と信頼の構築が必要不可欠であると実感させられました。
今後も高崎・安中二次医療圏の救急医療を担うため、より一層邁進してまいります。



当番病院挨拶をする関原院長

『救急で迷ったら』を講演した木村医師

総合司会を務めた石山医師

当院の生体間腎臓移植手術が40症例目を迎えました

平成23年から東京女子医科大学　腎センター外科チームと提携して試行してまいりました生体間腎臓移植手術が平成27年3月で40症例を達成することができました。
日本の透析療法のレベルは世界最高水準ではありますが、患者様にとっては時間的制約、食事制限、水分制限など大きな負担をさけることはできません。
腎移植は、慢性腎不全の治療法として唯一根治を期待できる方法です。そして生体腎移植は、遠い世界の話ではなく、身近な治療法のひとつになりつつあります。

医療法人社団日高会日高病院

◎群馬県がん診療連携推進病院
◎地域医療支援病院
◎災害拠点病院

病診連携通信

Ｎｏ84
平成28年5月16日
日高病院病診連携室発行
TEL 027-362-6201
FAX 027-362-0217

平成28年4月 1日より日高病院血管内治療センターを開設しました

【血管内治療センターを開設して】

当院でカテーテル治療を行っている各科（循環器内科、腎臓外科、脳神経外科、救急科、心臓血管外科）のノウハウを共有させることにより、カテーテル検査/治療のリスクを低減させ、さらに効果のある治療を達成させる目的で血管内治療センターを開設しました。スタッフも充実し、24時間敏速にカテーテル治療が提供できるよう努力いたします。

今後とも、ご指導の程よろしくお願い致します。

日高病院　血管内治療センター
センター長　　古賀　敬史

治療内容

① 外傷による骨盤内動脈、腎動脈、内胸動脈損傷に対する塞栓術
② 頭蓋内治療：頸動脈ステント留置術、脳動脈瘤に対するコイル塞栓術、超急性期脳梗塞に対するカテーテルを用いた血行再建術
③ 冠動脈、腎動脈、移植腎動脈、腸骨動脈、上肢/下肢動脈、鎖骨下動脈/静脈、腸骨静脈、シャント血管への血管形成術（バルン拡張/ステント留置/ローターバイブレーター）
④ 肥大型心筋症に対する中隔心筋焼灼術、大動脈弁狭窄に対するバルーン拡張術
⑤ 不整脈へのアブレーション
⑥ 大動脈ステントグラフト、急性動脈閉塞に対するフォガティカテーテルによる血栓除去

血管内治療センターの構成

【 紹 介 手 順 】

病診連携室へ連絡
↓
希望診療科・日時を伝達して下さい
↓
該当診療科へ確認します
↓
予約日時をお伝えします

担当医師	古賀（センター長/救急科/循環器科）、木幡（副センター長/脳神経外科）、久保（副センター長/腎臓外科/循環器科）
	安藤（腎臓外科）、矢野（心臓血管外科）、木村、須田（救急科）、安藤、村場、荻原（循環器科/救急科）
スタッフ	八木原、光山、今井、森田、広瀬、澤本、川井（看護師）、金井、星野、金沢、眞中、渡部、小林（臨床工学技士）
	菅原、高橋、神場、福島、清水（放射線技師）
スーパーバイザー	朝戸幹雄（IVR専門医）、熊谷浩一郎（不整脈治療/FACC）、川崎友裕（冠動脈治療/FSCAI）、朝倉利久
	（ステントグラフト：埼玉医科大学国際医療センター准教授）、大野英昭（心臓血管外科）

お問い合わせ：日高病院　病診連携室　（TEL）027-362-6201　（FAX）027-362-0217

医療法人社団日高会日高病院

◎群馬県がん診療連携推進病院
◎地域医療支援病院
◎災害拠点病院

病診連携通信

Ｎｏ85
平成28年10月8日
日高病院病診連携室発行
TEL 027-362-6201
FAX 027-362-0217

眼科の診療体制が変わりました

平成28年4月から**池田史子医師が常勤医**となりました。

それに伴い、平成日高クリニックの診療体制が以下のようになりました。

	月	火	水	木	金	土
午前	村岡 池田	村岡 高山（群大）	池田	村岡 群大医師	池田 石原（群大）	群大医師
午後 **完全予約制** **原則再診のみ**	硝子体注射 光凝固など			光凝固	硝子体注射 光凝固など	

【池田医師よりひと言】
群馬大眼科の伝統である網膜硝子体疾患だけでなく、大学で弱視・斜視専門外来を担当していた経験を生かした診療を行っています。
本年8月からは群馬中央病院眼科と連携することで、小児に対する全身麻酔下の斜視手術ができるようになりました。小児の斜視患者さんも、診断から手術、そして術後のフォローアップまで一貫して対応します。

抗VEGF療法について

抗VEGF療法（アフリベルセプト・ラニビズマブ）は、月・金の午後（完全予約制）に池田医師が行っています。抗VEGF療法が必要な患者さんの紹介は、月・水・金の午前中にお願いします。

手術について

手術は火曜日と水曜日に日高病院で行っています。

白内障手術：2泊3日の入院で、火曜日に池田医師と髙山医師が行っています。
全身麻酔が必要な症例も応じられます。

硝子体手術：増殖糖尿病網膜症をはじめ、硝子体出血を伴う疾患は村岡医師が水曜日に行っています。
なお、10月から、網膜前膜や黄斑円孔などの手術を池田医師が開始する予定です。

網膜復位術：バックリング手術は火曜日に行っています。進行性の網膜剥離は準救急疾患である為、ご紹介の際には、まず電話にてお問い合わせくださいますようお願いします。

斜視手術：日帰り、もしくは１泊２日で火曜日に池田医師 が行っています。なお、全身麻酔が必要なお子さんは群馬中央病院眼科と連携して、群馬中央病院にて２泊３日入院で行っております。
執刀は池田医師が担当してます。全身麻酔斜視手術を目的として患者さんをご紹介いただく場合でも、まずは平成日高クリニックの池田医師にご紹介ください。

眼瞼手術：加齢性眼瞼下垂、眼瞼内反症、眼瞼外反症、睫毛内反症などを対象に行っています。
眼瞼腫瘍は大きさや部位によりますが、当院で対応できるものは手術を行っています。
日帰り、もしくは１泊２日の入院で水曜日に行っています。

緑内障手術：線維柱帯切除術を行っています。

その他：眼窩脂肪脱出、翼状片など種々の手術を行っておりますので、どうぞご相談ください。

お問い合わせ：平成日高クリニック　（TEL）027-361-1215

◎群馬県がん診療連携推進病院
◎地域医療支援病院
◎災害拠点病院

医療法人社団日高会日高病院

病診連携通信

NO.86
平成28年11月7日
日高病院病診連携室発行
TEL 027-362-6201
FAX 027-362-0217

平成28年10月　最新型手術支援ロボットda Vinci Xiを導入しました

平成28年10月に手術支援ロボットdaVinci Xiを導入しました。2016年9月末で全国で240台のdaVinciサージカルシステム（S,Si,Xi）が稼働しておりますが、daVinci Xi は手術支援ロボットdaVinciサージカルシステムの最新機種で、全国で45台ほど稼働しており、北関東地域（埼玉・茨城・栃木・群馬）で初の導入になります。この最新型のdaVinci Xiはロボット支援下前立腺全摘除術を中心に、将来的には消化器領域・循環器外科領域などでの汎用性を期待されている機器です。daVinci Xiは従来のdaVinciサージカルシステムに比べ、より高画質な3次元立体画像（3D-HD画像を搭載）、より柔軟で広範囲に繊細な鉗子の動きの実現が可能になっており、更に正確・安全・低侵襲が向上するものと思われます。今後、年末年始の稼働を目標にスタッフ一同準備を進めてまいります。

日高病院　院長　関原　哲夫

【手術支援ロボットとは】
ロボット自身が医師の考えに従わずに勝手に作動することはありません。手術は十分にトレーニングを積んだ操作認定資格を持った医師の操作によって実施されます。医師がロボットを操作すると、ロボットが医師の両手の動きを認識し、患者さんの体内にある鉗子の動きを細かな部分まで忠実に反映し、手術が進行していきます。

機器の構成

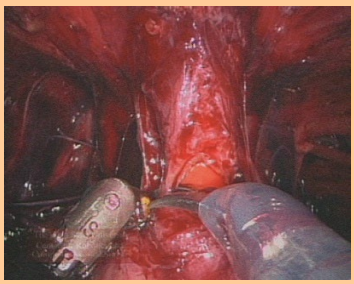
da Vinci Xi SURGICAL SYSTEM

1.サージョンコンソール：術者は患者から離れた操縦席に座り、3D画像を見ながら、両手で鉗子を動かし、両足でカメラの位置・向きや凝固・切開など電気メスとしての機能を操作します。
2.ビジョンカート：daVinciの心臓部であり、サージョンコンソールから入力された情報をペイシェントカートに伝える役目を担っています。中央部に電気メスが装着され、上部にはモニター画面があり、手術中は術者以外のスタッフはこの画面を見ながら術者をサポートします。
3.ペイシェントカート：4本のロボットアームによって、医師の手の動きを正確かつ繊細に再現して手術を行います。ペイシェントカートは直接患者さんとつながる機器で、助手（医師）・看護師・麻酔科医が操作を見守り術者のサポートを行います。

ロボット手術が適応になる疾患

2016年4月現在、前立腺全摘除術と腎部分切除術が保険収載されており、当院ではまずロボット支援下前立腺全摘を開始する予定でおります。また、2018年の診療報酬改定では消化器領域など他科領域への保険収載が検討されております

手術支援ロボットdaVinci Xiの特徴



従来の腹腔鏡手術に比べて、3Dの鮮明な画像を見ながら、人の手首より大きく曲がって回転する（540度まで回転）手首を備えた鉗子を使用し、緻密な手術を行う事ができます。右の写真のように尿道周囲を正確に確認し、術者の意のままに切開することで、出血量の減少や、排尿機能のより早い回復（尿失禁の減少）が期待できます。
ただ、患者さんを25度の頭低位にして手術を行うため、眼圧の高い方は適応にならない場合があるので、手術前に当院眼科に受診して頂きます。また、腹腔内手術歴がある方や全身状態が悪い方は残念ながら手術適応にならない場合もあります。当院で手術前にしっかり全身状態を把握し、他の治療方針（放射線・ホルモン療法）も含め検討の上、慎重に手術適応を決めていきたいと考えております。

お問い合わせ：日高病院　病診連携室　（TEL）027-362-6201　（FAX）027-362-0217

◎群馬県がん診療連携推進病院
◎地域医療支援病院
◎災害拠点病院

医療法人社団日高会日高病院

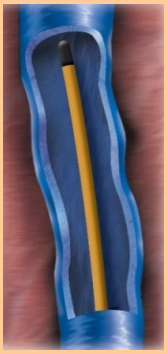
病診連携通信

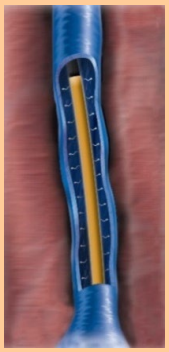
NO.87
平成29年5月13日
日高病院病診連携室発行
TEL 027-362-6201
FAX 027-362-0217

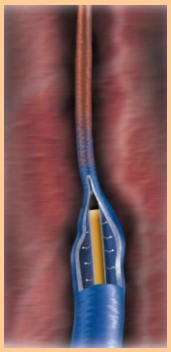
下肢静脈瘤治療を開始致しました　～高周波アブレーションカテーテル治療～

下肢静脈瘤は、40歳以上の女性に多く認められ、年齢とともに増加していきます。40歳以上を対象とした調査では、全体で8.6%に下肢静脈瘤が認められ、患者数は1000万人以上と推定されます。出産経験がある女性の場合は約半数の方が発症するとのデータもあり非常に身近な疾病と言えます。
今回導入した高周波アブレーションカテーテル治療は、静脈内にカテーテルを挿入して、内側から熱を加えてます。従来のストリッピング手術のように入院に必要性がなく、日帰りで治療が可能で、さらに低侵襲（痛みの少ない）治療となります。

コヴィディエンジャパン 「Venefit」


カテーテルを挿入する


熱エネルギーを放出し静脈壁を収縮させる


カテーテルを抜去し静脈壁が静脈を閉塞させる

外来でお気軽に治療が可能です

治療の流れ

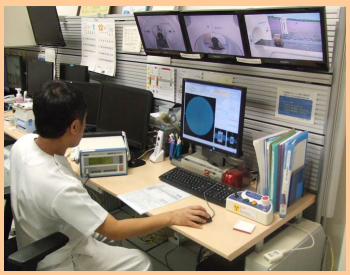
診察予約：電話で診察日をご予約できます。
診 察 日：治療日を確定します。
治 療 日：基本的には**外来で治療**を実施します。

治療費用

3割負担の場合	1割負担の場合
約45，000円	約15，000円

腫瘍センターに医学物理室を開設　医学物理士1名を配置しました。

近年放射線治療はがん治療に欠かせない存在になってきています。しかし、医療機器の進化も進み、照射方法や装置が大変複雑になってきました。安全かつ正確に実施するためには、複雑な治療計画装置と治療装置の維持管理や検証が必要不可欠となり、**医学物理士**が放射線治療の品質管理を専門行う時代になってきました。
当院のスタッフが資格取得困難である**医学物理士試験**を見事に合格しました。
群馬県内の放射線治療を提供している医療機関においても、**医学物理士**を配置していることは非常に稀であり、県内でも数カ所といわれています。



医学物理士の役割は、放射線治療が適切に実施されるよう放射線科医や診療放射線技師などと協力し、治療計画における照射線量分布の最適化および評価、治療装置・関連機器の受け入れ試験、コミッショニング、品質管理です。
今後、医学物理室では日々高い精度が要求される放射線治療現場の中で治療計画が正確に実現できるよう、安全で質の高い放射線治療を提供できるよう努力してまいります。

予約・ご相談窓口　：　日高病院　病診連携室　（TEL　027-362-6201）　お気軽にどうぞ！

医療法人社団日高会日高病院

◎群馬県がん診療連携推進病院
◎地域医療支援病院
◎災害拠点病院

病診連携通信

Ｎｏ88
平成28年10月8日
日高病院病診連携室発行
TEL 027-362-6201
FAX 027-362-0217

眼科の診療体制が変わりました

平成28年4月から**池田史子医師が常勤医**となりました。

それに伴い、平成日高クリニックの診療体制が以下のようになりました。

	月	火	水	木	金	土
午前	村岡 池田	村岡 高山（群大）	池田	村岡 群大医師	池田 石原（群大）	群大医師
午後 **完全予約制** **原則再診のみ**	硝子体注射 光凝固など			光凝固	硝子体注射 光凝固など	

【池田医師よりひと言】
群馬大眼科の伝統である網膜硝子体疾患だけでなく、大学で弱視・斜視専門外来を担当していた経験を生かした診療を行っています。
本年8月からは群馬中央病院眼科と連携することで、小児に対する全身麻酔下の斜視手術ができるようになりました。小児の斜視患者さんも、診断から手術、そして術後のフォローアップまで一貫して対応します。

抗VEGF療法について

抗VEGF療法（アフリベルセプト・ラニビズマブ）は、月・金の午後（完全予約制）に池田医師が行っています。抗VEGF療法が必要な患者さんの紹介は、月・水・金の午前中にお願いします。

手術について

手術は火曜日と水曜日に日高病院で行っています。

白内障手術：2泊3日の入院で、火曜日に池田医師と髙山医師が行っています。
全身麻酔が必要な症例も応じられます。

硝子体手術：増殖糖尿病網膜症をはじめ、硝子体出血を伴う疾患は村岡医師が水曜日に行っています。
なお、10月から、網膜前膜や黄斑円孔などの手術を池田医師が開始する予定です。

網膜復位術：バックリング手術は火曜日に行っています。進行性の網膜剥離は準救急疾患である為、
ご紹介の際には、まず電話にてお問い合わせくださいますようお願いします。

斜視手術：日帰り、もしくは１泊２日で火曜日に池田医師 が行っています。なお、全身麻酔が必要なお子さんは
群馬中央病院眼科と連携して、群馬中央病院にて２泊３日入院で行っております。
執刀は池田医師が担当してます。全身麻酔斜視手術を目的として患者さんをご紹介いただく場合でも、
まずは平成日高クリニックの池田医師にご紹介ください。

眼瞼手術：加齢性眼瞼下垂、眼瞼内反症、眼瞼外反症、睫毛内反症などを対象に行っています。
眼瞼腫瘍は大きさや部位によりますが、当院で対応できるものは手術を行っています。
日帰り、もしくは１泊２日の入院で水曜日に行っています。

緑内障手術：線維柱帯切除術を行っています。

その他：眼窩脂肪脱出、翼状片など種々の手術を行っておりますので、どうぞご相談ください。

お問い合わせ：平成日高クリニック　（TEL）027-361-1215

◎群馬県がん診療連携推進病院
◎地域医療支援病院
◎災害拠点病院

医療法人社団日高会日高病院

病診連携通信

NO.89
平成28年11月7日
日高病院病診連携室発行
TEL 027-362-6201
FAX 027-362-0217

平成28年10月　最新型手術支援ロボットda Vinci Xiを導入しました

平成28年10月に手術支援ロボットdaVinci Xiを導入しました。2016年9月末で全国で240台のdaVinciサージカルシステム（S,Si,Xi）が稼働しておりますが、daVinci Xi は手術支援ロボットdaVinciサージカルシステムの最新機種で、全国で45台ほど稼働しており、北関東地域（埼玉・茨城・栃木・群馬）で初の導入になります。この最新型のdaVinci Xiはロボット支援下前立腺全摘除術を中心に、将来的には消化器領域・循環器外科領域などでの汎用性を期待されている機器です。daVinci Xiは従来のdaVinciサージカルシステムに比べ、より高画質な3次元立体画像（3D-HD画像を搭載）、より柔軟で広範囲に繊細な鉗子の動きの実現が可能になっており、更に正確・安全・低侵襲が向上するものと思われます。今後、年末年始の稼働を目標にスタッフ一同準備を進めてまいります。

日高病院　院長　関原　哲夫

【手術支援ロボットとは】
ロボット自身が医師の考えに従わずに勝手に作動することはありません。手術は十分にトレーニングを積んだ操作認定資格を持った医師の操作によって実施されます。医師がロボットを操作すると、ロボットが医師の両手の動きを認識し、患者さんの体内にある鉗子の動きを細かな部分まで忠実に反映し、手術が進行していきます。

機器の構成

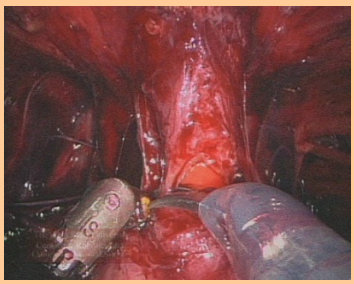
da Vinci Xi SURGICAL SYSTEM

1.サージョンコンソール：術者は患者から離れた操縦席に座り、3D画像を見ながら、両手で鉗子を動かし、両足でカメラの位置・向きや凝固・切開など電気メスとしての機能を操作します。
2.ビジョンカート：daVinciの心臓部であり、サージョンコンソールから入力された情報をペイシェントカートに伝える役目を担っています。中央部に電気メスが装着され、上部にはモニター画面があり、手術中は術者以外のスタッフはこの画面を見ながら術者をサポートします。
3.ペイシェントカート：4本のロボットアームによって、医師の手の動きを正確かつ繊細に再現して手術を行います。ペイシェントカートは直接患者さんとつながる機器で、助手（医師）・看護師・麻酔科医が操作を見守り術者のサポートを行います。

ロボット手術が適応になる疾患

2016年4月現在、前立腺全摘除術と腎部分切除術が保険収載されており、当院ではまずロボット支援下前立腺全摘を開始する予定でおります。また、2018年の診療報酬改定では消化器領域など他科領域への保険収載が検討されております

手術支援ロボットdaVinci Xiの特徴



従来の腹腔鏡手術に比べて、3Dの鮮明な画像を見ながら、人の手首より大きく曲がって回転する（540度まで回転）手首を備えた鉗子を使用し、緻密な手術を行う事ができます。右の写真のように尿道周囲を正確に確認し、術者の意のままに切開することで、出血量の減少や、排尿機能のより早い回復（尿失禁の減少）が期待できます。
ただ、患者さんを25度の頭低位にして手術を行うため、眼圧の高い方は適応にならない場合があるので、手術前に当院眼科に受診して頂きます。また、腹腔内手術歴がある方や全身状態が悪い方は残念ながら手術適応にならない場合もあります。当院で手術前にしっかり全身状態を把握し、他の治療方針（放射線・ホルモン療法）も含め検討の上、慎重に手術適応を決めていきたいと考えております。

お問い合わせ：日高病院　病診連携室　（TEL）027-362-6201　（FAX）027-362-0217

◎群馬県がん診療連携推進病院
◎地域医療支援病院
◎災害拠点病院

医療法人社団日高会日高病院

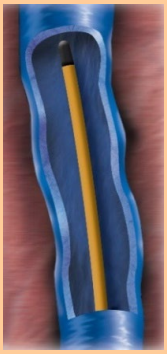
病診連携通信

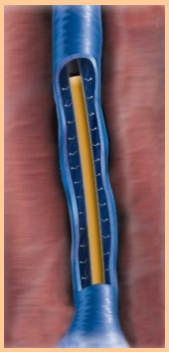
NO.90
平成29年5月13日
日高病院病診連携室発行
TEL 027-362-6201
FAX 027-362-0217

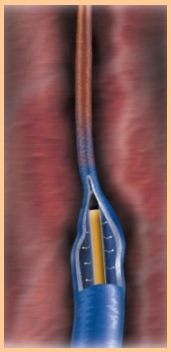
下肢静脈瘤治療を開始致しました　～高周波アブレーションカテーテル治療～

下肢静脈瘤は、40歳以上の女性に多く認められ、年齢とともに増加していきます。40歳以上を対象とした調査では、全体で8.6%に下肢静脈瘤が認められ、患者数は1000万人以上と推定されます。出産経験がある女性の場合は約半数の方が発症するとのデータもあり非常に身近な疾病と言えます。
今回導入した高周波アブレーションカテーテル治療は、静脈内にカテーテルを挿入して、内側から熱を加えてます。従来のストリッピング手術のように入院に必要性がなく、日帰りで治療が可能で、さらに低侵襲（痛みの少ない）治療となります。

コヴィディエンジャパン 「Venefit」


カテーテルを挿入する


熱エネルギーを放出し静脈壁を収縮させる


カテーテルを抜去し静脈壁が静脈を閉塞させる

外来でお気軽に治療が可能です

治療の流れ

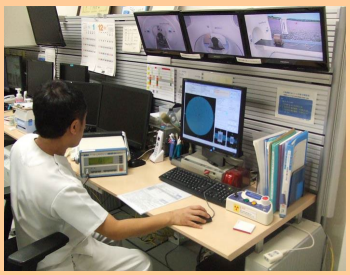
診察予約：電話で診察日をご予約できます。
診 察 日：治療日を確定します。
治 療 日：基本的には**外来で治療**を実施します。

治療費用

3割負担の場合	1割負担の場合
約45，000円	約15，000円

腫瘍センターに医学物理室を開設　医学物理士1名を配置しました。

近年放射線治療はがん治療に欠かせない存在になってきています。しかし、医療機器の進化も進み、照射方法や装置が大変複雑になってきました。安全かつ正確に実施するためには、複雑な治療計画装置と治療装置の維持管理や検証が必要不可欠となり、**医学物理士**が放射線治療の品質管理を専門行う時代になってきました。
当院のスタッフが資格取得困難である**医学物理士試験**を見事に合格しました。
群馬県内の放射線治療を提供している医療機関においても、**医学物理士**を配置していることは非常に稀であり、県内でも数カ所といわれています。



医学物理士の役割は、放射線治療が適切に実施されるよう放射線科医や診療放射線技師などと協力し、治療計画における照射線量分布の最適化および評価、治療装置・関連機器の受け入れ試験、コミッショニング、品質管理です。
今後、医学物理室では日々高い精度が要求される放射線治療現場の中で治療計画が正確に実現できるよう、安全で質の高い放射線治療を提供できるよう努力してまいります。

予約・ご相談窓口　：　日高病院　病診連携室　（TEL　027-362-6201）　お気軽にどうぞ！